

## 会 議 録

会 議 名 (審議会等名)		平成30年度 第1回 川西市青少年センター運営委員会		
事 務 局 (担 当 課)		こども未来部 青少年センター		
開 催 日 時		平成30年5月29日(火) 10:00~11:30		
開 催 場 所		教育支援センター 研修室		
出席者	委 員	石田 剛、宮坂満貴子、石田 充、米田公子、矢野孝雄、中田鞆子、古谷茂政、澁野敏彦、掛井政之、上中敏昭、岸 敬三、中塚一司		
	事務局	山元 昇、増田善則、今北隆博		
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部可	傍聴者数	0 人
傍聴の不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		開会 1. 運営委員の委嘱について 2. 会長あいさつ 3. 運営委員自己紹介 4. 協議事項 (1) 平成30年度 川西市青少年センター事業 (2) 平成30年度 夏季特別補導強化期間実施要領 歳末青少年補導活動実施要領 (3) 川西市青少年センターの位置について 5. その他 閉会		
会議結果		協議事項は(案)どおり了承		

## 1、運営委員の委嘱

教育長から委嘱辞令を交付

運営委員の委嘱辞令につきましては各委員の皆様のお手元に配布させていただきました。2年間どうぞよろしくお願いいたします。

## 2、会長あいさつ

おはようございます。運営委員の先生方には日頃より当青少年センターの事業につきましてご尽力いただきありがとうございます。昨今の状況はこどもの非行が昔に比べだいぶ落ち着いてきた側面もみられるかと思えます。逆に安全面、交通安全も含め、不審者等子どもを脅かす状況が新聞等で報道されているところがございます。青少年センター事業におきましても平成30年の秋にキセラ川西プラザが開設することでそこに移転して行くことになっております。教育委員会の組織改正に伴ってそのような形で運営させていただくところがございます。短い時間ではありますが有意義に協議を進めていただきますようお願いいたします。

## 3、運営委員の自己紹介

それではここで、新しく運営委員になられた方もおられますし、任期の始まりでもありますので、運営委員の皆様全員に一言ご挨拶をお願いしたいと存じます。

<各委員の自己紹介>

ありがとうございました。続きまして事務局にまいります。

<事務局の自己紹介>

それでは、次第の4 協議事項に入ります。ここからの議事進行につきましては、会長にお願いいたします。

(会長)

## 4、協議事項

協議事項(1) 「平成30年度川西市青少年センター事業」について事務局の方から説明をしてください。

<事務局説明>

(1) 平成30年度 川西市青少年センター事業 (資料1)

青少年センターを設置して青少年の健全育成と非行防止に取り組んでまいります。

青色回転灯装備車両による巡回パトロールの実施 (☆重点事業1)

学校幼稚園での「非行防止教室」「こども防犯教室」「不審者対応訓練」の開催

(兵庫県警察本部・川西警察署等と連携) (☆重点事業2)

「学校安全協力員」「こどもをまもる110番のおうち」の拡充 (☆重点事業3)

「補導活動」 (☆重点事業4)

協議事項（２）「平成３０年度夏季特別補導強化期間実施要領及び平成３０年度歳末青少年補導活動実施要領」について事務局の方から説明をしてください。

<事務局説明>

（２）平成３０年度夏季特別補導強化期間実施要領及び（資料２）  
平成３０年度歳末青少年補導活動実施要領について

【質疑応答】

（会長）

それでは、これから質疑及び意見交換に入ります。忌憚のない意見の交換をお願いいたします。

（委員）

保護者が持っている情報を、どこに、どんなふうに情報提供すればよいのか教えてほしい。

（事務局）

学校現場ではPTA役員に入った情報は、まずPTA役員で情報共有をすることが良いと思う。もちろん警察に通報しなければならない事案は躊躇せず連絡することが大切であるが、そうでない事案は、青少年が在籍する学校が特定できれば学校に伝え、管理職の判断を仰ぐことが良いと思う。指導の鉄則はその場の指導であるが、一般市民にとっては指導に限界があるので、わかる範囲で機関に情報を広げていくことが良いと思う。青少年の所在が分からない時や相談すべきかどうか分からない事案もあり、個人情報の問題もあるが、問題を一人で抱え込んだり、パイプを詰まらせたりしないように、風通しを良くして対応を考えていくことが大切だと思う。

（委員）

補導委員のメンバーにPTAさんが入っている。そのラインを利用する方法も効果的であると思う。

（委員）

キセラ川西がオープンしそこに「こども・若者ステーション」が開設されると聞き、青少年の居場所づくりに期待している。相談員は常駐するのか教えていただきたい。

（事務局）

現在は、子ども・若者総合相談窓口は業務委託により行っているため、市に常駐する心理士はいない状況にある。

（委員）

居場所について、是非とも、「いつでも、誰でも行ける場所」にしてほしい。期待している。

（委員）

昨年度も話したが、キセラ公園が子どもたちの「たまり場」になる傾向がうかがえ、危機感を感じる。公園を健全に使用するための約束事を決め、一本化した指導體制を作ってほしい。また、関係機関においては見回りを強化してほしい。

（会長）

広場ができれば子どもたちは溜まる。約束事を決めていきたい。

（委員）

キセラ公園はよく通るので様々な様子を見るが、昼と夜とでは光景が全く違う。夜は気になる。監

視を強化するなど手を打ってほしい。

(委員)

公園内の約束事がいい加減である。(例えば、自転車の使用について)

(委員)

警察は午後11時以後に現場に行く。日の出交番は現在2人勤務態勢である。気を付けて補導活動、防犯活動を進めていきたい。要望として、トイレの出入り口を映す防犯カメラを付けてほしい。2, 3台設置することでかなりの抑止力になると思う。

(委員)

こども・若者ステーションの目的と青少年センターの目的は少し違う気がする。キセラ公園のコンセプト(自分たちで作る)の見直しが必要なのかわからないが、当初の目的や将来像を範疇に入れてキセラ公園の在り方の啓発活動を進めていくことが必要だと思う。

(委員)

各高等学校では自転車の乗り方指導をされているが、なかなかマナーが良くなる。生徒会が中心となって啓発活動を進める取り組みに期待する。

(委員)

川西警察では「人身安全管理」にピリピリしている。「現場はそんなに危なくないのでは・・・」と考えておられるのではないかと不審に思われたらすぐに通報してほしい。警察は、被害届等通報されたら動ける。見回りだけでは補導しにくい現実があるので是非とも情報を出してほしい。

(委員)

青少年センターの人員が増えることはないのか。

(事務局)

今年度はこの体制で運営していくことになる。今後については、業務内容など踏まえて検討していく。

(委員)

地域でも青色回転灯を回して走っているのをみると、うれしいなど思っている。不登校や引きこもり対策の話だが、社会福祉の会に出てきたら同じようなことを話ししていた。不登校、引きこもり対策について、もしよかったら社会福祉とも連携をもたれてもいいのではないかと。

(事務局)

社会福祉部門に話を聞いて、どのような連携ができるのか、考えていきたい。

協議事項(3)「川西市青少年センターの位置」について事務局の方から説明をしてください。

<事務局説明>

(3) 川西市青少年センターの位置について

(資料 キセラ川西プラザについて)

【質疑応答】

(会長)

それでは、これから質疑及び意見交換に入ります。忌憚のない意見の交換をお願いいたします。

(委員)

義務教育が終わってからの青少年の進路変更や断念の話があったが、保護司会で活動する中で担当する子どもは進路変更した子たちが圧倒的に多い。どういう対策をしていったらいいのかと思う。どうもいわゆる役所仕事のような、枠から出られない、連携できない、単年度で解決しようとするなど職員の異動もあるので仕方ない部分もあると思うが、神戸ではすでにやっているようにアウトソーシングを考えていかないといけない。引きこもりも市内いろんな場所にいるので、地に足をつけた活動にしていけないと。他の団体との連携会議など出ているが、丸投げして終わりの印象がある。ひきこもりは目に見えないから実態がわかりづらく、身近に捉えられていない。本人と保護者に寄り添っていないと思うので、他の団体とつなげていきたい。数年前に引きこもりの子たちのキャンプをしたこともあるが、そういうところに出て来れる子は引きこもりではない。コンビニに行くぐらいの感覚で居場所作りができないか。政策のなかでサポートセンターをつくるとかいう話があったと思うが、居場所というのは場所ではない。人とのつながりだと思う。フレキシブルにできるように思うが、まず場所を作って看板掲げて、というのは違うと思う。足元から見ていく政策が大事なのではないかと思う。

(委員)

教育推進部は義務教育に関わっていて、現場の先生方は子どもに手厚く関わっていると思う。中学校卒業の段階で100%近い子たちが進路を決めているが、実態として義務教育を離れてから問題を抱える子も多い。役所の中でどこをどうつながっていくのが大事だと思う。義務教育が終わっても切り口としては元担任とのつながりが大事だと思うので、子どもの居場所としての施設、さきほど話に出た人と人とのつながり、全て教育だけではないと思う。以前は、青少年センターは非行問題をどうするのかという部分だったが、今はぐっと中身が変わって一人ひとりの子どもたちにどう関わっていくのかになってきている。

(委員)

先程と全く同じ意見だが、今は引きこもりは保護者がアクションを動かさないと何も動かない。形をつくってもそこに行かないと物事が動かない。おせっかいな町として動いてもいいのかなとも思う。ニートや引きこもり、不登校などおせっかいな近所の人が声かけしていくのはどうかと思う。

(委員)

以前、不登校に対するケーススタディに参加した。その時、民生委員や福祉など参加していたが、傍から見たら「こことここが繋がったらいいのに」と思った。当事者はテリトリーもあるし自分のことで手一杯なので、そういう発想がなかなかないのかもしれないが、周りからそういうの言える人や、どこかから手を伸ばす人がいればいいと思う。不登校の子の保護者も、年々疲れてあきらめになっていく。保護者が疲れているから「自分から来なさい」はしんどいと思う。

(委員)

学校の取り組みとしては、文科省のもと魅力ある学校づくりを進めている。全国で12万人の不登校の子どもがいるが、不登校になりそうな子を食い止めようという政策。授業がわかれば、友人関係が楽しければ学校に足が向くだろうというもので、昨年は東谷中がやっていた。今年から全ての学校が対象となっている。本校にも1年で不登校になりかけの子がいるので、いかに食い止めるかというのが大事になっている。

(委員)

先程から聞いていたが、人間関係の構築は難しいと思う。自分も保育所に勤めているが、何か問題

# 審 議 経 過

No. 5

が起こった時に担任に言うより、長く勤めている者に相談してくる。小学校に上がっても、同じように相談してくる家庭もある。良く知っている人に聞いてもらうだけで安心する部分があるのだと思う。社会教育委員としては、気軽に行ける公民館というのを掲げている。地域の引きこもりの子に対してもそれぞれの地域に公民館があるので、気軽に行けて一歩でも外に出るきっかけになればと思う。

(会長)

長時間ありがとうございました。今日いただいたご意見を参考にしながら、今後の事を考えていきたいと思います。

## 4、その他

次回は平成31年2月中旬開催予定

閉会